

# 國立成功大學

## 115學年度碩士班招生考試試題

編 號：29

系 所：台灣文學系

科 目：外文文學文獻解讀（日文）

日 期：0203

節 次：第 4 節

注 意：1.不可使用計算機  
2.請於答案卷(卡)作答，於  
試題上作答，不予計分。  
3.此考科可攜帶紙本字典入  
試場。

1. 翻譯下列文章。(25%)

名付けの権利

すべては名付けから始まる。他者の感覚（つまり、知ろうとする、あるいは理解しようとする意志と努力）を等閑視した他者に対する無知（無理解）は、植民地化以前の最初の接触から、分類学的企てのなかに表れている。他者を侮蔑的な呼称を与えるというのは、世界の始まり以来の古い現象である。その呼称は、多くの場合言語の相違にかかわるものであり、しかもそれは不平等な関係を生み出すものである。ギリシア人たちは自分たちと異なる言語を話す者たちを蛮族と呼び、スラブ人はドイツ人に、もともとは「物を言えぬ人」を意味する「ネミッツ（nemets）」という呼び名を与えた。マリのボボ人も、バンバラ語では「物を言えぬ人」を意味する名で呼ばれている。より一般的には、改宗者たち、探検家たち、商人たちは、自分たちの眼前にいる人々を、さまざまなイデオロギー的根拠に基づいて自分たちより劣等と見なし、自らの思うがままに名付けている。六世紀のグレート・ブリテン島では、ウェールズ人たちは自らをカムリ（Cymry：彼らの言語で「同胞」を意味する）と呼んでいたが、アングロ・サクソンの侵略者たちは彼らに「異邦人」を意味する呼び名を与え、それが彼らの呼称として残ることになった。「ウェルシュ（Welsh）」という呼び名である。一一世紀には、歴史家アル＝バクリーが『北アフリカ地誌』において次のような記述を行っているが、そこで言われていることは、明らかに、マリンケ語を話す王を、アラビア語話者たちが（イスラーム教徒を意味する言葉で）こう名付けたということなのである。

この国の向こうにはメレルという国があり、その王はアル・モスレマという称号を有している。（砂野幸稔訳ルイ＝ジャン・カルヴェ著 2006『言語学と植民地主義』p.69 三元社）

1.1 續上文，最後一段文中下線部分，請推測這個命名是否有什麼意涵？（5%）

2. 翻譯下列文章。(20%)

構造主義の文化理解

文化の概念

構造主義とは言語をモデルとした文化の研究であると、私は先ほど簡単にまとめてみましたが、そのときの「文化」という言葉はとても広い概念です。「文化」というと、芸術だとか、音楽、美術、文学のことだという、そのようないわゆる「文化的な」活動のことを指すのかと思うかもしれませんが、しかし、ここで「文化」と言っているのは、私たちの日常的な衣食住にかかわるすべての活動のことなのです。文学や芸術のような活動もちろん、文化の活動のひとつの部分ですが、神話だとか儀式だとか宗教といった人間の精神活動であるとか、様々なしきたりであるとか、建築や都市の成り立ちであるとか、政治や、あるいは法といった活動すべてを含んで、ここでは「文化」という概念で括られていることに注意しましょう。

なぜなら、ここで言う「文化」は、「自然」というもうひとつの広い概念と対比する形で使われているからです。「文化」は、「自然」と対比される。人間は、「文化」を作り出すことによって、動物的な次元としての「自然」から自立した存在となる。人間が自然から自立するということを可能にしているもの、人間が動物と区別され「人間」となっているゆえんこそが

「文化」だというのが、この文化概念の基本なのです。（石田英敬 2021 『現代思想の教科書世界を考える知の地平 15 章』第 12 刷 筑摩書房）

3. 下記の引用文をわかりやすいマンダリンに訳してください（25%）

新領土たる植民地が専制的統治の下に置かるゝは國家權力確立の必要上自然のことに屬する。臺灣總督はもと陸海軍の大將又は中將を以て補せられ、一般行政的權限の外に律令による立法權竝に陸海軍統帥權及軍政權をも有した。司法權の獨立すら當初は内地に於ける如くには完全でなかつた。而して治安維持については始め軍隊を主にしたが、兒玉後藤政治に至り大に警察力を充實し、且つ明治三十一年保甲條例を制定し、清國の遺制たる保甲の制度を採用して警察の補助機關と爲した。我領有後臺灣の舊制度は悉く變革せられし中にありて、保甲制度のみは再組織の上統治上最も有効に活用せられたのである。、、、（中略）、、別に保甲は壯丁團を組織して風水火災土匪強盜等の如き非常急變の事故に關し警戒豫防に備へしむ。而して右の保甲事務につき家長はその家族の動靜を監督し、各家長は相互的に相監視警戒し、保正甲長は全體を監督し、責任賞罰を明かにし、非違又は職務怠慢あるときは單獨又は連座の制裁を課す。即ち事に輕重により家長若くは保甲全員が本人の責任に連座するものである。

—矢内原忠雄『帝國主義下の臺灣』、岩波書店、  
昭和 4 年（1929 年）、221~222 頁より—

4. 下記の引用文をわかりやすいマンダリンに訳してください（25%）

なんらかのビジネスに携わっていて、今、社会に大きな地殻變動が起きていることを感じていない人はまずいないだろう。それが何なのかを明快に語ることはできなくても、これまでの常識では理解しづらいことがいくつも起きている。

たとえば、あらゆるものがインターネットでつながる「IoT (Internet of Things)」や、「AI (人工知能)」が自分で学ぶようになり人知を追い越すシンギュラリティなど、テクノロジーの爆発的な進化によって人類が経験したことのない現象が起きようとしている。

ビジネスの分野では効率化が飛躍的に進み、高機能・高付加価値の製品が生まれてはどんどん低価格で販売される動きが加速し、アメリカなどでは不動産などの資産を担保にお金を借りてまでモノを買い続ける異常な行動、俗に「ハイパー消費」と呼ばれる現象を生みだした。しかし一方ではそれと全く逆の「シェアリング」というスタイルが生まれ、急速に広がりを見せている。

シェアリングとは、カーシェアリングや自転車シェアリングなど、モノを所有するのではなく共有することだ。今はまだニッチなサービスに支えられている現象・行為かもしれないが、その奥にはこれまで資本主義経済を支えてきた価値観を根底から覆す可能性が秘められている。

—松島聡「テクノロジーの爆発的な進化がもたらす『社会の地殻變動』」、  
『THE GOLD ONLINE』、2017 年 5 月 26 日より—